

式

辞

遙照山の山並みにも、若々しい春の気配が満ちゆく今日の佳き日、新型コロナウイルス感染症の終息が待たれる中、保護者の皆様の御理解と御協力のもと、多くの御臨席を賜り、ここに、岡山県立鴨方高等学校、令和二年度卒業証書授与式が挙行できますことを感謝申し上げますとともに、たいへん喜ばしく思います。

ただ今、百六名の卒業生に対しまして、本校における学業を成就したことの証として、総合学科第二十三期生の栄えある卒業証書を授与いたしました。

卒業生の皆さんは、創立百十三年の歴史を誇る、伝統ある鴨方高等学校の名に恥じぬ成果を上げ、今日を迎えられました。

卒業おめでとう。本校を代表して、心から祝福の意を表します。

さて、本日、晴れの日を迎えられた皆さんの胸中には、三年間の学校生活の一つ一つの思い出が蘇っていることでしょう。

入学式の式辞の中で、本校のスローガンである「自分の生き方は自分で決める」という力を育むために、当時マリナーズに復帰したイチロー選手の「自分の能力を

生かすことで、可能性は広がる」という言葉をお借りし、本校でさまざまな知識を吸収し、体験を重ねていく中で、「皆さん、一人一人の可能性を大きく広げてください」とお話ししました。特に、「あさくち山環学プロジェクト」での地域の方々との交流やボランティア活動、各種検定、生徒会活動、委員会活動、部活動など、多くのことに挑戦してきました。このような、本校の特色ある学習活動に意欲的に取り組み、これからの新しい時代において活躍できる人材となれるよう、三年間の教育課程を見事に全うすることができました。

また、今年度は、コロナ禍による、学校行事などの縮小を余儀なくされ、本校の最大イベントである「鴨高祭」においても、大幅に変更した企画にもかかわらず、三年生がリーダーとなり、精一杯のパフォーマンスを披露し、ファイナーレでの表彰式では、一生懸命に取り組んだ証として、感動の瞬間をみんな味わうことができました。ひたむきに取り組むことで、「やればできる」「やったらできた」という成功体験を生み、心の底からの感激の涙となって現れたと思っています。この経験こそが、今後、社会の荒波を乗り越えていく、大きな力になると私

は信じています。

今、皆さんは、それぞれの未来に向かって飛び立とうとしています。皆さんの門出を祝うとともに、これからの活躍を祈念し、そのはなむけ餞として、次の言葉を贈りたいと思います。

それは、アップル社の創業者の一人であるスティーブ・ジョブズ氏の、人と関わることの大切さを表した、「感謝の心が人を育て、感謝の心が自分を磨く」という言葉です。

人は、自分一人で生きているわけではありません。自分を取り巻く空気、水、植物、動物などの自然環境に生かされ、周りの人々や、さらには地域社会などの生活環境の中で、あらゆるものに支えられて生かされているのです。そう考えれば、感謝の心が生まれ、自然と幸せを感じられるようになってくるでしょう。そして、その感謝の心を「ありがとう」という言葉や笑顔で周囲の人達に伝えることで、自分だけではなく、周りの人達の心も和ませ、幸せな気持ちにしていくのです。まずは、支えてくれる家族に感謝し、一緒にいてくれる仲間<sub>に</sub>感謝することなど、常に感謝を胸に日々を過ごすことができれば、

心穏やかに、人を許すこともできます。このように、広く大きな心で生きていくことにより、人生を踏み外すことも、間違った生き方をすることもありません。皆さんの心にはきつと幸せが宿ることでしょう。

さて、保護者の皆様にとっては、お子様のこの三年間は、変化と成長の最も著しい時期であり、御労苦も並々ならぬものがあつたことと拝察いたします。それだけに、本日は、喜びもひとしおのことと存じます。

改めて、心からお祝いを申し上げますとともに、お子様の中の在学中には、本校の教育活動の充実・発展のため、物心両面にわたり、多大なる御理解と御支援を賜りました事に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ門出の時です。皆さんの未来は皆さん自身で築くものです。これからは、健康に十分留意して、本校で身につけた自信と誇りを胸に、自分の夢に向けてたゆまぬ前進を続けてください。

結びに、卒業生一人一人が充実した人生を歩まれ、未来に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和三年三月一日

岡山県立鴨方高等学校長 石井孝典